

あ と が き

五月はじめ、核データ・炉物理／日韓合同セッションに参加するため Jeju (済州) に行った。釜山での乗り換えの搭乗口サービスで、いつものサーモンピンク縦長の Financial Times を手に取ったつもりが、同色同形の The Korean Herald という新聞だった。他はすべてハングルだったし、韓国で韓国の新聞が読めるのだから不満はない。教育欄をひらくと、核データ分野でも時々耳にする KAIST (韓国高等科学技術大学とでも訳すか?) の特集だった。創造性の涵養を目指した様々な教育実践や、教員にはかなりきつそうなテニユア制度等が紹介されたあと、この3月(韓国の新学期)から、新入生全員が、すべて英語で行われる授業コースを取らなければならなくなったとある。帰国後、韓国原子力学会から立派な英文論文誌が送られてきた。Invited Papers という区分があり、一種のレビューで勉強にもなる。東北大馬場先生のイオンビームに関するレビューもあった。この Nuclear Engineering and Technology 誌は隔月刊だが、Advisory Board には多数の外国人の名が並んでいる。韓国は元気だ。世界に向けてさらに窓を広げようとしている。さて冒頭の Financial Times だが、読みやすい英文で、世界の出来事とその背景も交えながら、いつもしっかりと説明されている。あまり日本では買えないし、せつかくの海外だ、ということで出張時の機内サービスではいつもこの新聞をもらうことにしている。私に縁のない経営動向や株価の記事が多いのが欠点ではあるが (Financial Times だからあたりまえか!)。日本の新聞は、背景は知っていて当たり前だと言わんばかり、仲間内向けか、と疑いたくなるような記事がやはり多い。

吉田 正

tyoshida@sc.musashi-tech.ac.jp

核データニュース編集委員会

中川庸雄 (委員長、原子力機構)、井頭政之 (東工大)、石川 眞 (原子力機構)、
岩本 修 (原子力機構)、山野直樹 (東工大)、吉田 正 (武蔵工大)、渡辺幸信 (九大)
[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子